

グローバルウィーク　オンライン勉強会の様子

ともしび
共生委員会ニュース

2020 年度　2 号

2020 年 12 月 3 日版

平和共生論文　クラス代表生徒題目一覧

HR301　T.A.	「外見至上主義と私たち」
HR302　S.Y.	「外国につながる子どもと生きる　～制度の整備とさらなる支援の必要性～」
HR303　S.F.	「アパレル産業におけるフェアトレード　―重要視される消費者行動－」
HR304　W.H.	「性的少数者を認め受け入れる世の中に向けて」
HR305　S.M.	「2 種類のバリアから見た身体障害者が送る日常生活の現状 ―国際化が進む日本の共生社会とは―」
HR306　J.T.	「児童虐待　～子の権利、親の権利～」
HR307　S.M.	「理想の最期を迎えるために ～アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）から考える～」
HR308　N.K.	「「特別」を「普通」に変えるには　―障害者という枠組みを超える－」
HR309　H.H.	「異文化の中で考える日本文化 ―ジャポニスムの受容の背景から探る異文化理解のあり方―」
HR310　U.S.	「地域創生における「よそ者」の役割」

グローバルウィークⅡを振り返って

HR305　K.D.（AOYAMA SECOND CHANCE）

私は AOYAMA SECOND CHANCE (ASC) に所属しています。私たちは食品ロスという問題について理解して深く考え、少しでも解決に近づくような行動をすることを目的として活動しています。具体的には、食品ロスに関する勉強会を開催したり、食べ残し NO ゲームやフードドライブを行ったりしています。フードドライブとは、家庭で余っている食べ物を学校に持ってきてもらい、それらをまとめてフードバンクに寄付する活動のことです。例年だと、グローバルウィーク期間中に食べ残し NO ゲームを開催し、フードドライブは一年に2回行っているのですが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大によりこれらの活動が出来なくなってしまいました。そこで、今回のグローバルウィークⅡで行ったのが、高等部にある非常食の中で賞味期限が迫っているものの一部を生徒に配布するという活動です。

高等部には、災害時に備えて全生徒の約4日分の食料が備蓄されています。また、天然水や食料品以外の備蓄品もあり、それらは全て防災備蓄倉庫に保管されています。今回のグローバルウィークでは、賞味期限が迫っている食料を食品ロスにしないために、昼休みの時間を使ってその一部を生徒に配布しました。具体的には、「尾西のドライカレー」・「ビスコ缶」・「尾西の五目ご飯」の3種類です。また、高等部の防災備蓄倉庫を撮影した動画を作成し、それを昼食の時間に流してもらいました。当日は予想していたよりも多くの人が来訪し、イベントは大盛況でした。配布したのは賞味期限が迫っている食料全体のほんの一部ですが、食品ロスになることを防げたのはよかったと思います。しかし、予想外のことも起き、課題や反省点もあったので、イベントの企画と準備及び運営に関してはもう少し改善できた部分があったかなと思いました。



防災備蓄品倉庫の一部

食品ロスは大きな社会問題です。日本では約 600 万トンもの食料が捨てられているにもかかわらず、およそ7人に1人の日本人が貧困に悩まされています。世界規模でみると、8億人以上が飢えに苦しみ、13億トンもの食品ロスが発生しています。食品ロスは、世界の人々が共生するという点から考えると、早期に解決しなければいけない問題です。食品ロスは大きな問題ですが、私たちが食品ロスに対する意識と行動を変えていけば、それらは解決につながっていきます。ASC の知名度はあまり高くなく、普段から食品ロスを意識している人は少ないと思います。だからこそ、今回のグローバルウィークⅡでの活動を通じて、ASC の知名度が上がることはもちろん、　1人でも多くの生徒が食品ロスに関心を抱いてほしいなと思っています。そして、1人でも多くの生徒が食品ロスをなくすことを意識した行動をすることによって、グローバルウィークⅡで ASC が行ったことに意味が見出されていくのではないかと思います。

私が遺したいもの

HR308 K.M.（ブルーペコ）

10 月に行ったグローバルウィークはいかがでしたか？私の所属する BLUE PECO を含めた 5 団体が、それぞれの活動や意見を伝える動画を放送しました。昼休みを使ってイベントを行った団体もありました。

例年ならば、5 月と 10 月の年に 2 回、昼休みや放課後に大勢の生徒が集まって、ポスターセッションを行ったり、コーヒーやとろろ昆布を振る舞ったり、大使館の方をお招きしたりと、高等部の一大イベントとして「密」に盛り上がっていました。しかし今年は新型コロナウイルスの影響で全てが開催不可能に。私は各団体のリーダーと 4 月から連絡を取り始め、5 月には「オンライングローバルウィーク」と題して特別 classroom を作成し、放課後にオンライン学習会を開催しました。ブルーペコとしても、これまでオンラインで　4 回・オフラインで 4 回、勉強会を実施しています。しかし、やはりこのような状況の中では思うようにいかないことの方が多く、今でもどのように活動を進めるべきなのか悩み続けています。

要因の一つは、やはりこの状況下、認知度・存在感が例年より低いということです。皆さんは私たちの存在や活動をどれくらい知っているでしょうか。「様々な国際問題やローカルな問題などを考え行動するなど、平和共生に関わる団体」…高等部ホームページなどから引用した言葉を並べてみると、私たちの活動はこう表せたりします。なんか、もっと分かりやすくてキャッチーな総称ないのかよ！って思いますよね、分かります。でも、私たちの活動はそんな曖昧なものな気がするんです。高等部には、宮古やフィリピンのような、学校主催のプログラムに参加するメンバーの団体や、ブルーペコやセカンドチャンスのような生徒有志で誕生した団体もあり、先日動画を見て分かってもらえたように、各団体の活動内容はかなり異なっています。また、私が所属するブルーペコは、「生徒自主学習団体」とだけあり、毎年メンバーの興味に応じて少しずつ形を変えながら活動を続けています。このように、私たちの活動の本質は、自分たちの興味のあること、やりたいことを自由にできるところにある気がするのです。

クラスでも部活でもない第三の場所の存在は、私にとってとても大きなものになりました。よくこの活動をしていると、「難しそう、硬そう、敷居が高そう、偉いね」なんて言われます。でもそうじゃないんです。もっとラフで自由で楽しい場所です。私はブルーペコで、尊敬する大好きで大切な仲間や先生に出会い、共に何でも思ったことを話してみたり、いろんな場所に行ったり、いろんな人の話を聞きました。我儘にも近いプロジェクトをいくつも実現させました。この３年間で自分自身が濃い人間になれたのはもちろんですが、何より仲間と過ごす日々が本当に楽しくて、普通の高校生とは違う青春をさせてもらえたなぁと思います。今では私の大切な居場所です。関わった全ての方に感謝しています。



仲間と一緒に、自由な発想で。自分の興味を、やりたいことを突き詰められる環境や、楽しいな～と思える居場所に、皆さんも是非、ほんの少しでも！足を突っ込んでほしいなと思います。それは生徒会活動でも、Mフェスでも、学校外でも、どこでも良いのです。私みたいに全身浸からなくても、ちょっと湯加減を確かめるだけで、新しい自分に出会えるはずです。その中に、私たちのようなグローバル・ローカル系の団体もいれたらいいなと思っています。「知ってるよ～！頑張れ！」って思う人が沢山いて、「少し興味あるかも！」って思った日には片足を突っ込めて、もし「楽しいな！」って思えたら居場所にできて、そこから「こんなことしてみたい！」なんて思ったら実現できちゃう。そんな存在として、私の大切で大好きなブルーペコ、「第三の場所」を来年以降に遺せるよう、残り少ない高校生活を楽しみながら、駆け抜けたいと思います。

「初心忘るべからず」

HR310　U.S.（宮古訪問プログラム）

あなたには、大切な人がいますか？



2011年3月11日、東北地方を中心に未曾有の被害を引き起こした東日本大震災は多くの尊い命を奪っていきました。今日一緒に過ごした人が、明日には冷たく硬い抜け殻になっている。コロナ禍で私たちは、常に「死」と隣り合わせの生活をおくりながら、その一方で、「死」への覚悟は出来ていない。これまで、宮古訪問プログラムは岩手県宮古市に訪れ、震災の記憶と現状に向き合い、被災者の方々の隣人として共生活動に取り組んできました。

そして今回、私たちはグローバルウィークにある課題を設定して望みました。それが、「これからの宮古訪問プログラムのあり方」です。今年は新型コロナウイルスの影響で宮古訪問は中止、来年の高等部生は誰ひとり参加経験がないという前代未聞の状況に陥っています。また、来年が震災から10年という節目の年であり、被災地として宮古に関わっていくべきか、一地域として関わっていくべきか、今後の関わり方も曖昧です。

今回のグローバルウィークは、感染対策の影響で例年通りの活動報告やセッションはできませんでした。しかし、このような状況だからこそ実現した、昼食時の各HRで放映する活動報告の動画は、全ての生徒にご覧いただき、大変良い機会に恵まれたと思っています。また、放課後に実施した、宮古訪問プログラムのあり方について考えるセッションでは、3年生と教師との本物の対話、共話が生まれました。その中で、過去の活動の課題や今後の目的を明確化したとともに、来年度のプログラム内容にまで踏み込んだ、未来への羅針盤の方角を設定できたと思っています。これまでの活動は、震災を学び、被災者の方々に寄り添うということが中心でした。しかし、今後の活動は、宮古でしかできない学びを、より面白く、より深いものへとアップデートしていけるのではないかと期待しています。

宮古に訪れたのは昨年の夏、既にあれから1年以上が経過しました。それでもなお、私たちが活動を続ける理由には、初心を忘れないことが挙げられます。能を大成した世阿弥が残した言葉に、「初心忘るべからず」というものがあります。一般的には、「はじめの志を忘れてはならない」という意味で用いられています。しかし、世阿弥が言ったその言葉には、「人生の中にいくつもある初心、その時々の初心を忘れてはならない」という含意が存在します。また、「初」という字は、着物を作るときに布地に最初に刀を入れることを表す漢字です。すなわち、初心を忘れないことは同時に、過去をばっさりと切り、常に新しい形へと変容することを意味しています。

私たち宮古訪問プログラムは、大きな変化の時期に差し掛かっています。来年度は宮古経験者がおらず、それに携わる生徒、構成要素である細胞が変化します。その一方で、人間の細胞が入れ替わるのと同様に本質は変わらない、過去の経験や知識は受け継がれていくと私は信じています。「初心忘るべからず」という言葉を胸に、私たち宮古訪問プログラムは漸進的成長を続けていきたいと思います。

「なんとなく」から始まった人生の転機　～フィリピンの子どもたちとの出会い～

HR303 W.H.(フィリピン訪問プログラム)

貧困問題にはさほど興味がなかった。ベトナムで暮らしていたこともあり、同じ東南アジアという共通点と親近感があったのと、なんとなく「行った方がいい」という直感が強く働いた、ただそれだけだった。

私の直感は大当たりだった。2019 年 3 月、フィリピンで過ごした1週間が私の人生を大きく変えることになる。現地で目にした雄大な自然、灰色の退廃した住居の連なり、肌を撫でる生温かい風、混じりけのある独特な匂い。五感に迫る欠片の一つ一つが、貧困を学ぶ私たちに、現実の深刻さをより一層強く訴えかけてくる。数字やデータでは分からない、生でしか感じえない実態がそこにあった。

かわいそう。フィリピンに訪れる前は、そこで暮らす貧しい人々が乏しい表情で粗末な生活をしている「かわいそう」な姿を想像していた。しかしそんな私の偏見をよそに、出会った現地の人々はみんな太陽のような温かさと笑顔で私たちを迎え入れてくれた。意気投合して徐々に熱を帯びる会話も気ままに踊るダンスも南国のフルーツいっぱいのごちそうも、自分でも驚くほど、幸せに満ち足りた実感があった。彼らとのかけがえのない時間を過ごした私の頭の中には、もう「かわいそう」なんて言葉はなかった。

しかし、そんな生き生きとした彼らの中には、貧困によって教育を受ける機会や自分の将来の夢をあきらめるといった厳しい現実を背負う子もいた。私たちよりもまっすぐな彼らがどうしてそんな目に合わないといけないのか。日常を怠惰に過ごす私が、当たり前のように大学に進学し就きたい仕事を考えていることに、日々を一生懸命に過ごす彼らへの申し訳なさと、そんな彼らに何もできないやるせなさを強く感じた。

毎晩メンバーや先生と一緒に、1 日の振り返りをはじめとして、貧困や麻薬、教育などのあらゆる問題の理解を深めるミーティングを行った。それが終わった後でもメンバーのみで集まり、どうしたら高等部生がこの問題に目を向けてくれるのか、私たちの支援するチャイルドについて知ってもらえるのかを考え、深夜3時まで話し合うこともあった。なんとなくの興味、それがいつのまにかフィリピンに対する強い熱意に変わっていた。

もともと国際支援の仕事は一切視野に入れてこなかった。それにもかかわらず、フィリピンでの貴重な体験が私の人生の幅を広げてくれた。こうなれたのも熱意のあるメンバーと私たちを支えてくださった先生方のおかげだ。将来は発展途上国に実際に出向き、地域の人々の生活の向上を支える人になりたい。フィリピンでかかわった人々への恩返しも兼ねて。今年はコロナの影響で渡航が不可能になったのにもかかわらず、多くの生徒が関心を寄せてくれ、グローバルウィークでは高等部の支援するチャイルドへのクリスマスカードをたくさん集めることができた。学年、男女問わず丁寧に手紙を書いてくれる生徒の姿に、凄く胸が熱くなった。その手紙一枚一枚がどれほどチャイルドの心を温め、大きな励みになることか。クリスマスカードを書いてくれた生徒の皆さんに沢山の感謝をここで伝えたい。



実際に現地に行くことで広がる世界がある。ありきたりだが、今の私を体現する言葉だ。たかが 1 週間、されど 1 週間。フィリピン訪問プログラムによって人生が変わった一人として、このプログラムは人生の糧になることを保証する。

グローバルウィーク主催団体からのおしらせ

①私たち６団体の活動情報を classroom にアップしています。クラスコード〈＊＊＊＊〉を入力し、是非ご覧下さい！

②ブルーペコの活動に興味がある！という方は、是非 308 Kにご連絡ください！
一緒に楽しみましょう！